

全体学習へのおもい(中学生当時)

全体学習については、はじめた春頃は「公開授業」のような、研究授業なのかなと思っていましたが、回を重ねるごとに、前段の「授業」の部分が導入のようなもので、それが後段の「全体で想いを語り合う」部分のためのものであるような、そういう感じを受けていました。なので、初めの頃は形式に沿って「見せる授業」をしている感覚でしたが、次第に「語りたい人が、語りたいことを語る場」として、生徒自身が主体となつてすすめる時間になっていったと思います。

教師から生徒へ発言して欲しいというような雰囲気を感じなかったわけではありませんが、当時の私は、発言したくない人はしなくてもいい時間、無理に語らなくてもいい時間だとも感じていました。それはこの学習が、他の教科学習とは違う、自分たちでどう進めるか決めていい時間だと感じていたからかもしれません。ただ、他の生徒がどういう風感じていたのか、発言をプレッシャーに感じていた生徒や、同級生の意見に興味がなく、無駄な時間だと思っていた人もいたかもしれません。

おもいを語り合うことについて、まわりは「発言を強制されているのではないか」「パフォーマンスではないか」というような、どちらかといえば否定的な意見があることを感じてはいました。それは、当時の先生方の間でも、中学生であった同級生の間でも、保護者の間でも、肯定・否定の意見が分かれていたように感じていました。ただ、立場を超えて意見が分かれていたことが、私にとってはまさに「人権学習」であったように思います。大人にも、子どもにも、それぞれいろいろな意見を持った人がいて、答えのない問いのようなものに、みんなが向き合っているような感覚でした。

一番印象的であったのが、普段の学校生活では語りを聞くことがない仲間の言葉を聞くことができたことです。まじめとはいえない雰囲気の同級生が、実は物事を深く考えていたり、核心をついた事を言ったりする、そのことが私の中で「偏見を持っていたら、本質はわからない」と実感するきっかけとなり、まさしく人権体験学習であったと思います。人が熱くなったり、一生懸命に何かを訴えること、発言することが、恥ずかしいことではないと思えたのも、この学習があったからです。

また、「教師対生徒」「大人対子ども」というような構造で意見が分かれているのではないと実感できたことも、コミュニケーションの在り方についての視野が広

がったような気がしたこともあります。ひとりの意見の重みが教師であっても、生徒であっても親であっても、みんな同じであると感じられたことが、全体学習の時間だけではなく、他の生活にもいい影響があったように思います。

全体学習へのおもい(今現在)

今現在、40歳を目前にしていますが、人権教育啓発を推進する仕事をしています。今年で10年目になります。私がこの仕事を続けているのは、前述した「全体学習」を体験したことが根幹にあると感じています。

日頃から、「女性」「子ども」「高齢者」「障がい者」「同和問題」「外国人」から感染症、セクシュアルマイノリティに関するものなど、さまざまな人権課題に関する講演を聴く機会があり、日々人権教育啓発の大切さ、学校、地域、家庭、職場など、あらゆる場面での啓発が、今も昔も変わらず重要であると感じています。

人権について考えるにあたっては、「他人事を自分事と感じられること」、「おもいを通わせること」など、自分にとってのキーワードはたくさんありますが、人権について考えることは何ら特別なことではなく、日常そのものであり、自然な生活の中で生じるあらゆる事柄に関連していると思います。「差別をしてはいけない」「人権侵害をしてはいけない」というのは大前提としてありますが、してはいけないことを探して指摘しあうのではなく、現実に日常生活に差別や人権侵害が生じることがある意味前提で、誰しもが「差別する側」「差別される側」になり得る。それをどのように共有して、解消して、よりよい方向に進めていくかの積み重ねであると考えています。そのことがまさしく「全体学習」に込められていると感じているからこそ、『「全体学習」を体験したことが根幹にあると感じている』と言えるのです。

〈メリット〉

- ・人権感覚を磨くためのトレーニング
- ・ディベート能力向上(語り合いへの抵抗感をなくす)
- ・自分なりの意見を持つトレーニング
- ・他人の意見を聞く、興味を持つ機会
- ・偏見に気付く、様々な意見があるなど、気づきの場
- ・「人権」を実感できる場
- ・他人事から自分事へ
- ・部落問題だけではなく、様々な人権課題への意識へ影響

〈課題〉

- ・長期間にわたる関わり，語りかけが必要
- ・「語る場」を作ることの難しさ(信頼関係の形成が必要不可欠)
- ・大人も「本音を語る」
- ・子どもへのフォローをどうするか
- ・保護者，地域など，時代の変化
- ・大人も共に学ばなければならない(教師，保護者も含む)

全体学習は、〈メリット〉で記したように、多くの学びや気づきがあると感じています。それをするためには〈課題〉にある事柄について取り組まなければ「安心して、本音を語る場」をつくることは難しいように思えます。今になって、当時を振り返り、先生方がいかに子どもや親、地域と向き合って、時間も労力も費やして「本音を語る場」をつくってくれたのかにおもいをめぐらせ、深く感謝の気持ちでいっぱいです。まさしく地域の学校にしかできない、学校の先生にしかできない、子どもや親、地域への「贈り物」であると感じています。今の時代、コミュニケーションをとることが複雑化している中(ネット社会、本音が見えにくい、世代間交流の機会が少なくなっている)、同じような場を作り出すことは本当に難しいと思いますが、だからこそ、人権教育啓発が大切で、みんなが将来のために続けていくべきことだと考えています。効果を感じるのに長い月日が必要なものである。今、人権教育や全体学習について語られ、少なくとも私自身には大きな財産となっていることを伝えられたらという想いで、ここに綴ります。

板野中学校全体学習 2～4年目

30代男性 OH メール

おはようございます。僕の率直な意見を送りますね。僕は、埼玉県から引っ越してきて板中に入りました。同和問題なんて全く知らなかったんです。板中のみんなは知ってました。小学校から問題顕在化し取り組まれてたのでしょうね。

僕ね、知らなかった方が良かったって当時思っていました。わざわざ知ることないんじゃないかな？知ったが故に違和感持ったり、そんなつもりないねんけど何かギクシャクしてしまったり、態度では表せへんねんけど、心の中では『可哀想』と勝手に思ったり…。知らなかったら今まで通り普通に過ごせるのに…って。

部活の帰り〇ちゃんと歩いてたら、アイツ、カミングアウトしてきたんです。『何で言ってくるん？わざわざ…別に差別なんかせえへんし…それ言って俺に何を？』って思ってたんやけど。でも別れて一人帰ってる道中で何か涙流れました。イジメ受けてるわけじゃない〇ちゃんが何故カミングアウト？環境、周囲、影響は自分の想像以上に酷いの？世間知らずだけやったんか？って考えながら帰った記憶があります。

その時も思いました。全体学習？掘り返すなよ。って。昔ほどじゃないんじゃないの？俺ら同和問題でイジメてるの板中内で聞いたことないねんけど…。違う所で小競り合いあるだけちゃうの？

討論では、意見言える強者や伝えたいと純粋に発言する者。でも恥ずかしくて言えない、代弁に感謝してる者。色々だったはず。

僕は、オープンにしないで！全体であからさまにしないで！そっとしといて…って思ってる者は誰なんだろうって目で周囲の顔色伺ってました。

発言してないのに涙流してる人。これ、賛同して泣いてるの？思い返して泣いてるの？もうやめて…って思ってるの？どっちなんだろう。

当時は同和問題でイジメしたことないねんけど(関係ないイジメはしたけど(笑))、顕在化されたことで知ったことで『大変なんやろうな』って立場に変な感情抱いてました。これが、僕の間立場の正直な感想です。『当時の』ね！

今はね、それ以上に世の中知って…。

高校卒業してから尼崎に住んでるんですけど、もっと同和差別にギスギスしててね。在日や在韓多くて、『今(社会人なって)』『ようやく』討論する理由・重要性が分かりました。K先生や吉成先生の熱さは何故？っていうの

は、社会に出てからです。

これが同和問題を知らず、当事者被害を受けてなく、親友にカミングアウトされた他人事のような立場で全体学習に参加していたパターンの中の一人の感想です！

僕の当時は当事者のYさんやOさんが活発で、Bさん達が意見交換する状況でした。限られてましたよね。女性が殆どでしたし(笑)それは何故？参加者は親身に聞いていたのか、心ここにあらずだったのかは分かりません。その時感じた人、僕みたいに後々感じた人、様々だと思います。

結局、何を目的で全体討論されたのか、動機付けどうするのか、層別で個々のケアを事前にされての開催とか、幼稚でその瞬間生きてた中学生には後々からじゃないと理解できませんよね。そう振り返ると、吉成先生はホント大変で悩みながらの運営だったと思います。

『リアルに覚えてんだ』って言葉貰いましたけど、それは先生の熱血の成果ですよ。

懐かしい歌聞けば当時が走馬灯のように思い出されます。でも三日前の出来事覚えてません。コレ、記憶じゃなくて『感動』で心に響いてるからなんですよ？

僕、全体討論の席まで覚えてます。体育館の校庭側、前列三番目でした。向かいの窓から職員室越しに青天で…感じたことは温度差個人差あるでしょうが、僕は残ってます。

『先生時代』だけの教育に留まらず、現時点もFBやlineを拝見し思います。僕は高校サッカーばかりだったんで、中学の三年間しか道徳受けてません。けど、先生は引き続いて悩み模索し…。その一瞬を与えてもらったし、一時の『授業』じゃなかったんやな。って。

掘り返すなよって思ったのは、僕が人生で考えられてなかったからなんやなって。今も続けてる先生見たら余計に思います。だから、20年振りですけどlineしようと思ったんです。

FBで、「研究され一般化…」と記載されてましたが、僕は熱血→人情→人柄だと思います。あまり偉そうなこと言えませんし、経験された先生には敵いませんが、僕も今、部下30人居て思うのが、相手は『人』なんですよ。感情持ってるんで厄介ですわ(笑)。

僕はサッカー繋がり先生との関係は濃かったです。だから、繋がり薄かった人に対してどう取り組み前、取り組み後に理解活動されたかで変わると思います。先生のこと好きでしたし楽しかったから、僕みたいなパターンでも心に残ってます。今、活かしてるか？と問われると…ですが。

当時アカンかったと言ってるんじゃないですよ！

ケアが大事なのかな？って偉そうにも思っただけですから。ですから、『一般化』とか形式だったもんじゃない、先生の人柄・人格でそのまんま行ってほしいなと思います。感情あるんで固定できないですよ、やっぱ。絶対ケースバイケースで対応していかなアカンのですから！悩むのは未だ物足りないですよ？やったりましょ！先生さあ、弱音lineしてんじゃねーよ(笑)『やり続ける』ことが一番大変なんですから、やったりましょ！答えなんか結果論です。100人集団で100人満足しないよ！せめて先生自ら満足してよ！じゃないと、無理無理(笑)

『人を動かす』

色んな教え子含めて、これから待ってる人にも気張ってあげて下さいね。何の参考にもならなかったかも(>_<)

偉そうに答えた分、僕も頑張りますわ！奮闘してる投稿楽しみにします！